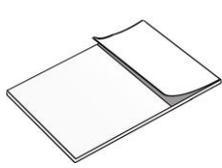
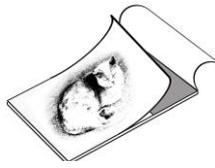


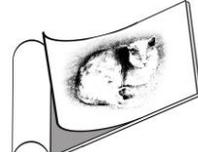
糊つきパネル（スチレンボード）への写真の貼り方（例）



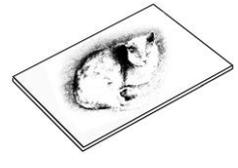
1. パネル糊面の保護紙に切り目を入れ、左右の保護紙とも少し剥がして軽く戻す。これであとで剥がしやすくなる。



2. 写真をパネルに沿って置き左側を押さえ、右の保護紙を剥がしながら写真を静かに乗せていく。



3. 反対側の7割の糊面も2.と同じ動作をして写真を全面定着させる。



4. 写真を貼るときは、気泡が入らないように慎重に内側から外に向けて密着させていく。

審査員プロフィール

北井 一夫（きたい かずお・写真家）

1944年、中国旧満州鞍山市生まれ。1965年、日本大学芸術学部写真学科中退。写真集「抵抗」未来社。1971年、写真集「三里塚」のら社。1972年、「三里塚」で日本写真協会新人賞受賞。1974年～1977年、アサヒカメラ「村へ」「そして村へ」連載。1976年、「村へ」で第1回木村伊兵衛賞受賞。1979年、アサヒカメラ連載「ドイツ表現派の旅」。1980年、写真集「村へ」淡交社。1981年、写真集「新世界物語」長征社。1990年、写真集「いつか見た風景」蒼穹舎。1994年、写真集「おてんき」宝島社。2001年、写真集「1970年代 NIPPON」冬青社。写真集「1990年代北京」冬青社。2004年、写真展タイムトンネルシリーズ「写真の形と時代」リクルート。2005年～2013年、日本カメラ連載「ライカで散歩」。2006年、写真集「'80 フナバシストーリー」冬青社。写真展「村へ」東京国立近代美術館。2008年、写真集「ドイツ表現派 1920年代の旅」冬青社。2009年、写真集「Walking with Leica・1、2」冬青社。2010年、写真展「Kitai Kazuo in China 1973」禅フォトギャラリー。写真集「西班牙の夜」冬青社。2011年、写真集「Walking with Leica・3」冬青社。2012年、写真集「三里塚」がマーティン・パー編集の『プロテストボックス』（シュタイデル社）の1冊に選定、復刻される。写真集「バリケード」ハーバー・ブックス。写真展「バリケード」ハーバー・ブックス・ギャラリー（米国イースト・ハンプトン）。写真展「いつか見た風景」東京都写真美術館。写真展「過激派」禅フォトギャラリー。写真展「神戸港湾労働者」ギャラリー冬青。2013年、日本写真協作家賞受賞。2014年、写真展「Color いつか見た風景」キヤノン・ギャラリーS。写真展「村へ」ツァイト・フォト・サロン。写真集「道」禅フォトギャラリー。同写真展。2015年、写真集「抵抗・カラー補足版」自費出版。写真展「北京・1990年代」ツァイト・フォト・サロン。写真集「過激派」オンリーフォトグラフィ。2016年、写真集「津軽、下北」N2[ナツラエリ・プレス]（米国）、同写真展禅フォトギャラリー。写真集「流れ雲旅」ワイズ出版。2018年、写真展「プロバガンダ」ピリケンギャラリー。写真展「フナバシストーリー」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku。写真展「The Origins of Japanese Contemporary Photography」韓国、釜山、古隠写真美術館。2019年、写真展「シカグループ」ピリケンギャラリー。2020年、初のデジタルによる写真集「道」のら社。同写真展ピリケンギャラリー。写真集「過激派の時代」平凡社。2021年、写真展「村へ、そして村へ」フジフィルムスクエア写真歴史博物館、写真展「千の葉の芸術祭 CHIBA FOTO」写真集の裏側。写真集「Color いつか見た風景」合同会社 PCT。2022年、写真展 in 隠岐 VOL1「村へ」隠岐の島町図書館。2023年、写真展 in 隠岐 VOL2「フナバシストーリー」隠岐の島町図書館。写真集「ドイツ表現派紀行」合同会社 PCT、同写真展ツァイト・フォト国立。写真展「隠岐の島」隠岐の島町図書館。写真展「フナバシストーリー」船橋市民ギャラリー。2024年、写真展「写真の旅人」南魚沼市池田記念美術館。写真展「フナバシストーリー」で第40回写真の町東川賞飛弾野数右衛門賞受賞。

中里 和人（なかざと かつひと・写真家、東京造形大学名誉教授）

1956年三重県生まれ。1979年法政大学文学部地理学科卒業。日本の地誌的ランドスケープを中心に、社会的な場所性写真展、写真インスタレーション、写真ワークショップを各地で開催。社会的な場所性、地域特性を読み込んだアートイベント、写真インスタレーションとして、「向島ネットワーク」東京都墨田区の長屋、「まちがミュージアム」富士吉田市、「WANAKIO」沖縄県那覇市、「越後妻有アートトリエンナーレ 2012、2015」新潟県十日町市、「SOFT CITY」ドイツ・ベルリン、「すみだ向島 EXPO2020、2021、2022」墨田区向島、「スリッブヴァイン写真展」スウェーデン ストックホルムなど多数開催。主な写真展に2015年「lux」新宿二コソサロン、2016年韓国テグ国際写真ビエンナーレ。2018年「小屋とMABU」越後妻有絵本と木の美の美術館企画、「transitions」ドイツ・ハンブルク、「Night in Earth」銀座巷房、「光ノ漂着」銀座巷房、「東京プロジェクト Tokei Tokyo」墨田区竹内建具製作所、「URASHIMA」銀座巷房、「SPECTRES」ドイツ・ニュルンベルク クunstハウス、ケルン日本文化会館、「東京」韓国ソウル Beansseoul など。写真集に『湾岸原野』（六興出版）、『小屋の肖像』（メディアファクトリー）、『キリコの街』（ワイズ出版）、『路地』、『4つの町』、『グリム』（清流出版）、『東京』（木土水）、『R』（冬青社）、『ULTRA』（日本カメラ社）、『龍宮』（sana vv）、『lux water tunnel land tunnel』ワイズ出版、『Night in Earth』（蒼穹舎）『URASHIMA』（蒼穹舎）などがある。共著に『夜旅』文／中野純（河出書房新社）、『石はきれい、石は不思議』（INAX出版）、写真絵本『こやたちのひとりごと』文／谷川俊太郎（ピリケン出版）、『東京サイハイ観光』文／中野純、『セルフビルド』文／石山修武（交通新聞社）、『花』花いけ／上野雄次（JIKONKAJIKONKA）。映像作品に『BOSO TIME TUNNELE』（sana vv）などがある。2022年にギャラリー-sana villageを開館し、地方でのアートとデザインを発信する活動を展開中。2018年日本写真協会賞審査員。2021年度三重県展審査員。2022年度広島県展審査員。

<http://www.nakazato.info/>

おことわり ※出品作品については主催者側でふさわしくないと判断した作品は会場展示をとりやめることがあります。※被写体の肖像権や撮影地の許可確認などはすべて出品者の責任において対応してください。※ホームページでの入賞発表は作品画像も掲示することをご了承ください。またその作品画像を無断転載したり商業利用することは固くお断りします。※年少者の応募作品については本人が撮影し、保護者が制作を支援することを可とします。※審査についての異議・質問は一切お受けできません。※送付中を含めやむを得ない事情で発生した事故にはその責を負いません。

出品票は別紙をご覧ください。船橋市写真展ホームページからもダウンロードできます。